情報公開文書（自施設単独研究用）

作成年月日：２０２６年１０月２４日

ご報告

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される診療情報等は他機関への提供は行いませんが、本来２０２１年6月に公開すべき下記の患者様への大切なご案内が、事務手続きの不手際で遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。本研究に参加され下記のご案内に該当する方で、ご意見やご不明な点などがございましたら、お早めに下記問い合わせ窓口までご連絡ください。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の実施許可を得て実施しています。当該診療情報等の使用については、研究計画書に従って仮名加工化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性がありますが、個人が特定される情報は一切公開しません。**本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料および診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前まで２０２６年１２月までの受付となりますのでご了承願います。**

【研究課題名】切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法に関する Dual energy CT を用いた治療効果判定及び予後予測

【今回の対象者（研究対象者）】

１）受診期間：西暦２０２０年１０月から西暦２０２１年１０月までの間

２）受診科：久留米大学病院　消化器内科

３）対象疾患名：肝細胞癌の患者さん

【診療情報の項目】病歴、診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、CT 画像、血液検査（全血算、肝機能等）

【研究目的】切除不能な肝細胞癌に対して、近年多数の分子標的治療薬が使用可能となりました。分子標的治療薬の抗腫瘍効果は、血管新生の抑制によるものが主体であり、腫瘍の大きさが変わらないまま腫瘍の造影効果が低下することが多くみられます。しかし、薬の量を減らしたり治療を中断すると造影効果が再度出現する場合もあり、腫瘍内の正確な血流評価を行う画像診断が望まれています。2020 年９月 25 日に本邦で、免疫チェックポイント阻害薬であるアテゾリズマブと分子標的治療薬であるベバシズマブの併用療法が保険収載され、投与可能となりました。新たに免疫チェックポイント阻害薬が加わることにより、さらに複雑な画像動態を示す可能性があります。画像診断手法である Dual energy CT は、２つの管電圧で撮影することで２種類のＸ線エネルギーのデータを取得することが可能な CT 装置です。機器の発達より詳細な画像解析が可能となり、臨床的な有用性が多数報告されている他、造影剤をマッピングすることにより、より正確な血流評価が行えることが期待されています。本治療における治療効果判定や予後の予測に、この Dual energy CT が有用かどうかの検討を行います。

【研究（利用）期間】久留米大学倫理委員会承認後から２０２５年１２月３１日（以降の研究継続の申請予定あり）

【問い合わせ窓口】（本学）研究責任者：久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門　岡村　修祐

電話: 0942-31-7561（直通）（対応可能時間　平日 9:00～17:00）

学術研究支援センター事務室　電話: 0942-65-3749（直通）（対応可能時間　平日 9:00～16:00）

研究番号　21096